

LCV「諏訪圏情報BOX」第5回

- **放送日** 令和3年9月7日(火)、14日(火)
- **テーマ** 災害に強い森林づくり等について
- **出演者** 諏訪地域振興局林務課治山林道係 中島 利樹

○ 聞き手とのやりとり(概要)

(Q) 8月の豪雨の災害の状況はどうですか？

(A) 諏訪地域振興局林務課所管では、現在山地災害が16箇所、林道災害が307箇所発生しており、西側の岡谷市に集中しています。県内では木曽や松本地域等で災害が多く発生しています。

今後国等に復旧の申請をし、人家や国県道等の緊急性の高い箇所から対策に着手する予定です。

(Q) 諏訪地域では今までどのような対策を行っていますか？

(A) 治山においては、平成18年7月に岡谷市などで発生した豪雨災害を教訓に策定された「災害に強い森林づくり指針」にもとづき、治山ダム等の施設や森林の整備を進めています。

(Q) 具体的には？

(A) 「尾根マツ、谷スギ、中ヒノキ」という文言を、聞いたことはありませんでしょうか？これは、マツは表土のうすい乾いた場所、たとえば尾根、スギは表土の厚い湿った場所、たとえば谷、ヒノキはちょうどその中間の斜面が生育に適しているということを示しています。

マツやスギ、ヒノキなどの人工造林用樹種は、治山事業ではあまり使用されませんが、崩壊地の復旧などに、施設整備に合わせ、広葉樹のケヤキ等その場所の表土の厚さや水分状況等に適した樹種を植栽しています。これを「適地適木」といいます。

(Q) 他にもありますか？

(A) はい。平成18年7月豪雨災害の発生地は、間伐が行われておらず、高さは高いが、幹は細く、根の小さいもやしのような状態であったため、多量の雨水に耐えられず倒れ、土砂とともに流出しました。下方の森林も同様の状態であったため、流出を止められずに巻き込まれて大災害になりました。

このことから、施設整備を行った周辺の森林の間伐等の整備も合わせて進め、「適正管理」に努めています。

(Q) 対策は、施設整備と「適地適木」、「適正管理」の森林整備ということですね。
その他防災上の留意点はありますか。

(A) 本年度の山地災害防止キャンペーンの標語は、「防災は治山と避難の合わせ技」となっています。

各市町村のハザードマップやインターネットで手軽に検索できる長野県の信州くらしのマップ等で、ご自宅や避難経路等が土砂災害警戒区域等の危険な場所になっていないか調べ、高齢者避難、避難指示が出た時等いつ避難するのかを決め、避難時の持ち物の準備を事前に行って、雨に濡れるのを躊躇することなくすばやく避難することが、命を守ることに繋がると思います。

また、河川沿いや、上部が山地でかつ沢や窪地になっている場所の下流域は、危険な場所に指定されていなくても、水が集まりますので避けてください。

(Q) 「治山」と「避難」ですか。もうすぐ秋の台風シーズンの真っ只中となります。防災には十分に留意しましょう。

中島さん、本日はありがとうございました。